

特記事項の記入方法について(資料1-2)

(1) 認定調査票(特記事項) 概況調査欄

■地名や施設名等の個人が特定できるような情報は記載しないでください。

例:「〇〇県在住」→「県外在住」

「〇〇特別養護老人ホームに入所」→「特養に入所」

「〇〇病院に入院中」→「市内病院に入院中」

■利用希望のサービスは記入しないでください。記載する場合はマークシートの「IV欄 特記すべき事項」に記入してください。

例:「本人は施設への入所を希望されている。」「デイサービスの利用回数を増やしていきたい。」等

(2) 各調査項目への特記事項欄

■点線内には1行につき、1行のみ記入してください。(複数行の記入はしない。) 1行でおさまらない場合は、改行して点線の下次の行に続きを記入してください。Wordで行を増やす方法を作成しました。別添資料を参照ください。

■通所サービスを利用されている場合は、自宅と通所時両方の状況を記入してください(すべての項目共通)。

■必ず全ての項目について、記入して下さい。

該当がない場合、特記事項に「該当なし」と記入してください。

6群「特別な医療」に該当がない場合は、「〇〇様に確認。該当項目なし。」等記入をお願いします。

■「できる」「介助されていない」の項目は、どのようにできるのか、具体的にご記入ください。「一部介助」や「全介助」の場合、介助方法を具体的に記入してください。

■マークシートの選択番号だけを記入しないでください。

例:「1を選択」→「1.できる」を選択する。」「できる」を選択する。

※審査会委員には、マークシートの番号が表示されない資料をお渡ししていますので、番号だけでは選択肢がわかりません。

特記事項の記入方法について(資料1-2)

- (1-1)、(1-2)については、以下の点に注意して記入してください。
 - ・項目をひとまとめにせず記入してください。
 - ・(1-1)各部位の状態を「左右上下肢その他部位」に分けて記入し、拳上の高さ、静止の状況などを記入してください。
 - ・(1-2)各部位の状態を「肩、膝、股関節、その他の部位」の関節別に分けて記入し、拳上の高さなどを記入してください。

 - (2-3)は、介助の方法ではなく「えん下」能力について記入してください。

 - (2-5)、(2-6)は、日中及び夜間の排泄回数を記入してください。

 - 3群項目は、調査時と日頃が異なる場合、日頃の状況についても記入してください。
 - ※(3-4)については、調査時の直前記憶の質問・記憶テストの有無、日頃の状況を記入してください。

 - (5-6)は、定義に記載の「炊飯・温め・即席めんの調理」について、定義に沿った内容で有無及び頻度を記載してください。
 - ※副菜などの調理は、評価の対象外です。

 - (7-2)認知症高齢者の日常生活自立度は、身体的理由ではなく、認知機能の低下によっておこる、症状・行動を記入してください。
(認知面での理由により、金銭管理、服薬管理ができない、着替え、食事、排便、排尿が上手にできない、時間がかかる等。)

 - **不適切な状況があり、適切な介助の方法を選択する場合には、「どういう状況が不適切であり、どういう介助が必要か」**を記載してください。
- (3)その他
- 事務局からお電話し、聞き取りした項目等は、事務局で追記・修正いたします。
 - ※情報開示請求があった場合、認定調査票及び特記事項を開示することとなります。トラブル防止のため、市に提出した調査票と相違がないようお願いいたします。